

認知症の症状別対応方法

～お互いに安心して介護生活を送るために～



徘徊

○徘徊のきっかけ

外出するには、本人なりの理由があります。

例えば、自宅を自分の居場所と思えずに、家に帰ろうとしたけれど、その家の場所が分からずに歩き続ける・トイレに行こうとしていたのに、それを忘れてうろろしている…等、結果的に「徘徊している」と周囲からみられてしまいます。

○徘徊に対する対応方法

1. 安全のための対策

明るめの服装や衣服や靴に反射素材を取り付けておくほか、服の裏側や靴の側面に連絡先を書いておいたり、持ち物に連絡先を記載したカードを入れておくことも大切です。

2. 高砂市高齢者等見守り・SOSネットワークの登録(※)

①日ごろからの見守り体制づくり②行方不明発生時の搜索の協力が得られたりするようなシステムを活用しましょう。

3. 本人の気持ちに共感する

出かけようとするご本人の気持ちを否定したり止めようとするのではなく、よく話を聞いて、ご本人の気持ちに共感しましょう。優しく声をかけて気分を換えて貰ったり、別のことに意識を向けたりすることも大切です。

実際にご本人が行方不明になると、警察への搜索依頼を迷うご家族があります。家族が思っているより、認知症の方の行方不明はよくあることです。地域との連携や、おたがいさまの時代になっているのです。手遅れにならないうちに、警察や地域の人に協力を仰ぎましょう。

※高砂市高齢者等見守り・SOSネットワーク事業

所在不明になるおそれのある認知症高齢者等を地域の支援を得て、早期に発見することができるようにするため、関係機関の協力連携体制により、高齢者の安全と家族への支援を図ることを目的としています。

高砂市地域包括支援センター(認知症相談センター)

☎(079)443-3723

